

スコッチウイスキー産地別(3) アイランズ 華やかでエレガント～最大の産地



スコットランド北部を取り囲む大小の島々。蒸留所の多いアイラ島以外の6つの島にも個性的な蒸留所があり、アイランズ地方として分類されています。蒸留所のある島の製品を網羅しました。潮の香・北の海の荒々しさを感じさせます。香しくありながらも骨太なものが多く、度数も高めです。濃い目のソーダ割がお薦めです。普段使いのウイスキーで作るハイボールとは全く異なる深い味わいをお楽しみ下さい。

アイランズ各島のウイスキー お好きなだけ
会費:2500円 (おつまみ付き・飲み方は自由)

8月17日(金)、24日(金)、25(土) 他の日も応相談
17:00 - 20:00 事前連絡歓迎 於:Café & Bar 朝堂院

ルイス島



ルイス島
アビンジャラク (46度)
ルイス島は東京都程度の面積で、他の島に比べて僻地に近い場所にあります。蒸留所は2008年創業です。操業期間が短く、生産量も少ないので希少な製品です。まだまだこれからの蒸留所かもしれません。シングルカスクということで、粗削りで若い製品です。

オークニー諸島



ハイランドパーク
12年(40度)
1798年の創設。スキヤパ蒸留所から半マイル北の周囲より高台の"High Park"と呼ばれる場所にある。この12年物は、自社でモルティングしているらしい。やや甘いフレーバーに穏やかな潮とスモーキーさ。飲みやすい。



スキヤパ スキレン (40度)
メインアイランドにある蒸留所で、SCAPA川(長い地峡の入り江)の河岸に位置する。創立は1885年。スキレンとは輝くように明るいう夏空のこと。青いラベルとヨットがレリーフされたボトルはそのイメージ。ファーストフィルのアメリカンオーク樽による熟成。潮の香りとほんのりした甘さ。ストレートやロックもいける。

スカイ島



タリスカ
57° NORTH (57度)
スカイ島はゲール語では「翼の島」という意味らしいが、複雑な海岸線形状をした島の形に由来するのは定かではない。蒸留所の創設は1830年で北緯57度17.9分、西経6度21.5度に位置する。銘柄名はこれに由来する。また、度数もそれに合わせて57度と高い。潮の香りとスモーキーさ。強い骨格。ソーダ割がとて美味い。



マル島



トバモリー
10年 (46.3%)
トバモリーとはマル島の行政中心である。ゲール語で「(聖)マリア」を意味する。漁業組合が1788年に漁港の町として開いた。蒸留所はその10年後の1798年にLedaigとして創設された。シングルモルトはピートを焚かないのが特徴。その分、潮の香りが引き立っている。度数は46.3%と強め。これもソーダ割が美味しい。

ジュラ島



ジュラ
10年 (40度)
アイラ島の近くにある約360平方kmの島であるが人口は200人不足である。島の東に蒸留所があり、設立は1810年である。味わいは非常にスムーズ。荒々しさはなく上品な感じだが、潮っぽい島感はある。ストレートでガンガンいける。

アラン島



ザ・アラン・モルト
10年 (46度)
1994年に創設された島内唯一の独立系蒸留所。若いモルトで、柑橘、バニラの印象。香ばしさもある。潮の香りは強烈でガツンとくるが、アルコールっぽくはない。ソーダ割はおすすめ。